

授業改善の視点

入れる

協議Aから得られた指導・助言の内容

学校全体の授業改善にどう活用するか

授業はじめの課題提示

誰に？どこに？
何をさせるか？

研究主任、教科主任。
「課題提示のタイミングについての視点で互見授業を観察。」

班内・学級全体の交流工夫

誰に？どこに？
何をさせるか？

班の交流 → 学級担任、学年主任
学級全体交流 → 学年主任に互見授業
学年にあった交流の工夫を考案させる

教材、ICTの工夫
T₁、T₂の活用

誰に？どこに？
何をさせるか？

情報担当に校内研修で提示させる
効果的に活用している先生に授業として思い広める

アンケートの実施

誰に？どこに？
何をさせるか？

研究主任に提案

グループ別協議用シート (G) グループ

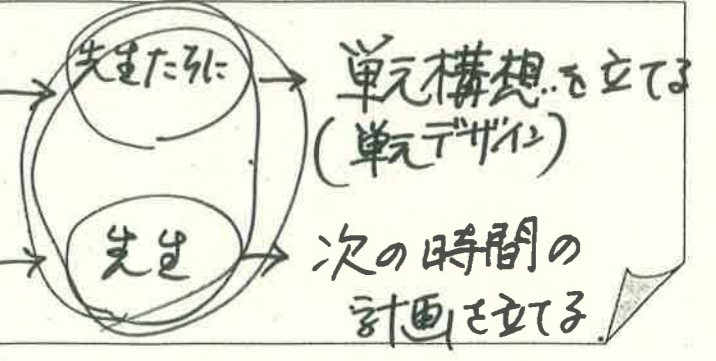
協議Aから得られた指導・助言の内容

学校全体の授業改善にどう活用するか

学習過程やゴールがイメージできる
「課題」「めあて」の設定

誰に?どこに?
何をさせるか?

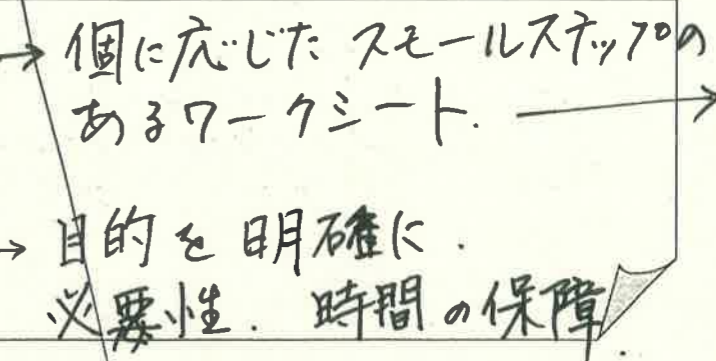
単元の中で中核になる目標の明確化
目的確かな評価 (1時間ごとの)



授業ツールの活用と工夫

誰に?どこに?
何をさせるか?

ワークシートの工夫
グループ活動



A・Bに
合わせて

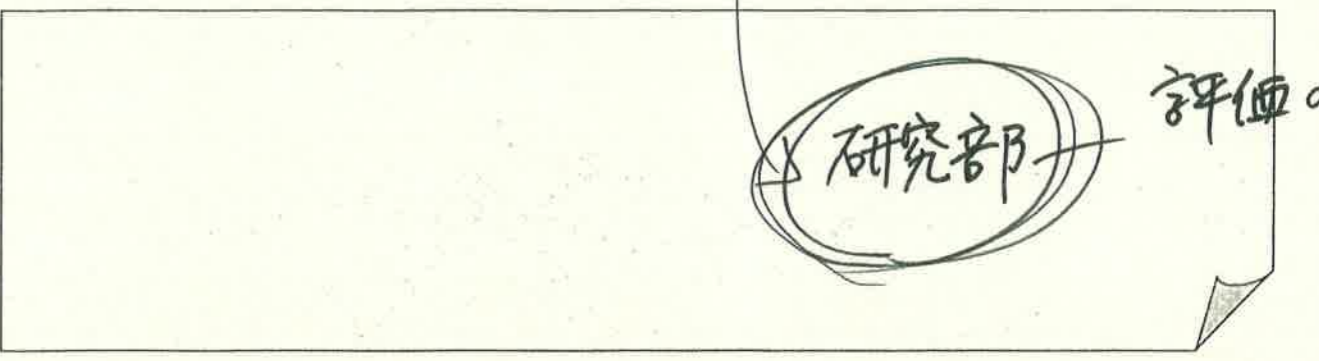
考えを持つ
それを説明 (表現)

誰に?どこに?
何をさせるか?

話し合い活動の
日常化
考えを持つ手だて



誰に?どこに?
何をさせるか?



評価の仕方の
研修

グループ別協議用シート (I) グループ

協議Aから得られた指導・助言の内容

学校全体の授業改善にどう活用するか

- Aの子もBの子も両方が有用感を感じられるようにする。
- 班活動が単調だったので、班活動をしっかり機能させる
- 班活動は手段

誰に?どこに?
何をさせるか?

- A → Bに教えるだけでなく、Bの子に対する手立ての工夫(ヒントカードなど)
- Bの子にも自在解決が必要。
- Bの子の理解度の確認が必要

誰に?どこに?
何をさせるか?

- 授業の流れ → もっとポイントを
しぼる
- 子どもがねらい(ねあこ)を受けとれまわっていなかった
- 聞く活動が多かった → 「書けるか」大切

誰に?どこに?
何をさせるか?

誰に?どこに?
何をさせるか?

- 授業改善チームで検討(研修部と) → 確認。
- 互見授業、授業観察でチェック・評価
- 複数回行う。他教科と共有
- 話し合う手順を決めておく(小 → 中)でつなぐ。

- 上と同じ
- 手立てを考えて検証する。(くり返す)
- 学校内で手立ての共有(ヒントカード、ホワイトボード)

- 上と同じ
- 考えさせるところ、パターンをくり返しなどメリハリをつける。
- ボルトの会話を部分的に空らんにして、こぼれを考えさせるよかったです。
- Bの子にはもう少し和訳があるとよかったです。